

# 能動的な学びのカギは、成長の実感 「進化し続ける」カリキュラムが下支え

**能**動的な学習を行ううえで大切なのは、「成長していることを実感できること」。そう語るのは、神奈川県介護支援専門員協会でも副理事長を務め生涯研修体系構築推進委員会に所属する今田義昭さんと早野眞理さん。同協会では、ケアマネジャー（以下、ケアマネ）が自身の現在地を把握し、それをもとにステップアップできる研修体系を構築している。実践力が身についたと実感することで向上心を持ち続けられる研修カリキュラムを支えるのは、研修講師とファシリテーターの意識の高さと実行力だった。

### 自分の現在地を知りステップアップ 生涯を通じて成長できる研修プログラム

—— 4月3日、政府は介護保険法などの改正案を国会に提出しました。改正案によると、資格の有効期間の更新のための研修は廃止される一方、法定研修自体は義務づけられるとのことです。研修の方法も検討が進められており（P.7）、今後、個々のケアマネには、より自律的に学ぶ、能動的な姿勢が求められそうです。神奈川県介護支援専門員協会では地域のケアマネに向けて独自に「介護支援専門員生涯研修体系（以下、生涯研修体系）」の構築および企画・実施をしています。実践に生かせる学びを重視しているそうですね。

**今田** 当会は主任介護支援専門員研修と同更新研修の2種の法定研修を、県からの委託で実施しています。これ

ら法定研修を、独自の生涯研修体系という法定外研修が連動・補完することで、知識と実践力を高める仕組みをつくっています。生涯研修体系は15年以上前に、個々のケアマネの成長ステップに応じて生涯学び続けられるプログラムを提供することを目的につくられました。以来、時代の変化に合わせてブラッシュアップと新たなプログラムの構築等をし続けてきました（現在の研修ラインナップは図1）。最近だとヤングケアラーやダブルケアなどに関する内容を盛り込んだり、ファシリテーター研修では実際のファシリテーション場面を研修部会のメンバーが再現した動画教材を作成したり、カリキュラムも内容も変化させ、基礎から応用まで何度受けても新たな学びが得られるように進化し続けています。

特徴的なのが、参加者のスキルに応じて必要な研修を選べることです。当協会では、実施する法定研修の各プログラムごとに「自己評価シート（図3）」を使って受講者に受講前・後での自身のスキルを把握する機会を設けています。このシートは「(1) ケアマネジメントプロセスの理解と実践、(2) 介護保険制度の理解と倫理、(3) 利用者にとって効果的なケアマネジメント展開をしているか、(4) チームアプローチの理解と実践、(5) ケアマネジメントの目的の理解、(6) 自立支援に即した支援を目指しているか、(7) 相談できる環境整備を自ら行うこと、(8) 地域ケアシステムの構築に向けて」という8項目、41の事項に応じて、4段階の尺度基準で自己評価を行うものです。これにより自分自身の到達度合いが分かるので、それに従って生涯研修体系のメニューから選ぶことができます。経験年数等の推奨対象者（図1）を目安



取材協力 ▶

### 今田義昭さん

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会  
副理事長  
生涯研修体系構築推進委員会委員長  
主任介護支援専門員研修部会 部会長  
多職種連携研修部会 部会長  
居宅介護支援事業所みずのと 管理者



### 早野眞理さん

同 副理事長  
法定研修等企画部会 部会長  
株式会社エナメディカル  
ケアステーション優縁 管理者